

台風第13号に対する農作物の事前・事後対策

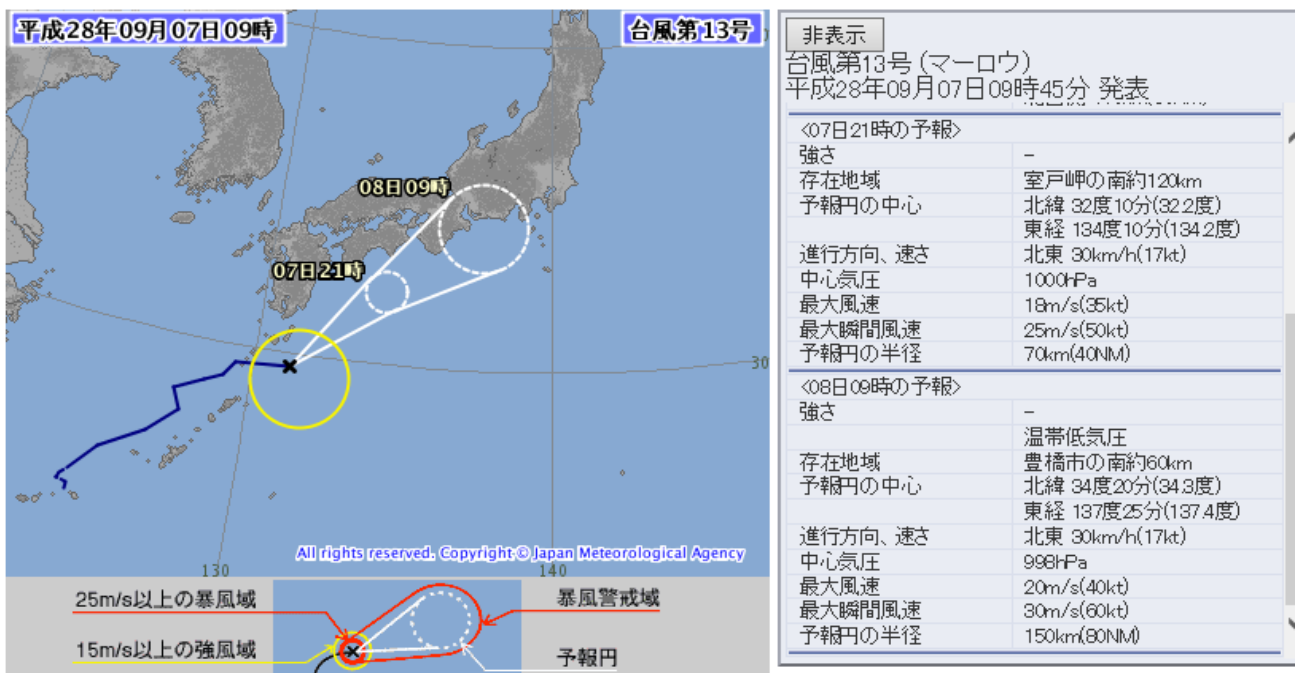
平成28年9月7日
農業技術課

[台風の現況と予想]

台風第13号は、9月7日9時には種子島の南約100kmにあつて、東北東へ進んでいます。中心の気圧は1000ヘクトパスカル、中心付近の最大風速は18メートル、最大瞬間風速は25メートルとなっています。現在の予報では、8日9時頃には豊橋市の南60kmを通過すると予測されています(中心気圧996ヘクトパスカル、中心付近の最大風速20メートル、最大瞬間風速25メートル)。

(9月7日気象庁発表)

この段階で温帯低気圧へと変わるとみられていますが、その後も雨や風の危険性が残されていますので、十分注意してください。



台風の中心が予報円に入る確率は70%です。

○共通事項

- ①気象情報に注意し、事前対策を早め実施する。台風が接近した場合には、強風等による人的被害の危険性が高まるので、大雨や強風が治まるまでは、見回り等を行わない。また、大雨が治まった後でも増水した水路その他、危険な場所には近づかないなど安全には十分注意し、転落、滑落事故に遭わないように慎重を期す。
- ②ハウス等については、強風に備え、金具等の緩みなどを点検、補修するとともに、マイカ線などによる被覆資材の固定、妻面の補強など、暴風対策を実施するとともに、飛来物による損傷を防止するため、周辺で強風によって飛ばされる恐れのあるものは、あらかじめ片付けておく。また、農機具庫や作業小屋等についても必要な補修や強風対策を行う。
- ③収穫期を迎えた農作物については、集出荷施設等の指示に従って収穫を行うが、未熟なものは収穫しない。

○果 樹

〔事前対策〕

- ①冠水、滞水の恐れのあるほ場では、排水路を点検、補修、整備する。
- ②傾斜地等では、樹冠下の土壌流亡を防ぐため、敷ワラや敷草を行う。
- ③ブドウ等収穫期を迎えている果実は、台風情報に注意し、必要に応じ速やかに収穫する。

<立木果樹>

- ①倒伏や主幹部の損傷を防止するため、支柱等により固定する。帆柱が設置してあるモモ園等では針金を点検し補修する。
- ②収穫前（晩生種等）の園では、枝のゆれによる傷や落果を防ぐため、風の当たりやすい枝を中心に支柱などにより固定する。
- ③シルバーマルチ等を敷いているほ場では、強風によりマルチが飛ばされたり、捲かれないようにマルチ押さえを補強しておく。

<棚栽培果樹>

- ①強風による棚のゆれや倒壊を防ぐため、つか杭を追加設置する。
- ②ブドウでは、新梢が強風により棚から外れるのを防ぐため再誘引を行う。
- ③ブドウでは、大雨による裂果を防ぐため排水対策を徹底する。
- ④簡易雨よけを設置してあるほ場では強風でビニール等が飛ばされないよう、補強をしっかりと行う。
- ⑤シルバーマルチ等を敷いているブドウ（甲斐路系）のほ場では、強風によりマルチが飛ばされたり、捲かれないようにマルチ押さえを補強しておく。

<施設果樹>

- ①施設栽培では、棚やパイプ等の骨材の点検を行い、必要に応じて補修や補強を行う。特にビニールがまくられないようにマイカ線等の点検を徹底する。
- ②ブドウの雨除けハウスでは、施設の倒壊を防ぐため、風が強くなる前にビニールを巻き上げる。

〔事後対策〕

- ①園地が滞水している場合は、速やかに排水対策を行う。また、傾斜地で根元の土壌が流亡している場合は、土寄せを実施する。
- ②樹が倒伏した場合は、台風通過後直ちに、根を切らないように樹を起こし、根元に土を寄せ支柱等で固定する。
- ③太枝が裂けた場合は、裂傷部をビニールで覆い、縄等で結束する。なお、裂傷がひどい場合は、裂傷部を平らに剪除し、ゆ合剤を塗布する。
- ④ブドウは、枝や新梢の再誘引、カサのかけ直しを行う。また、葉ズレ、カサズレ、打撲のひどい果粒は摘粒する。
- ⑤落果した果実は、病害の伝染源となるため、速やかに園外へ持ち出すか、土中に埋める。
- ⑥ほ場巡回を行い、裂果や果実腐敗病が発生している場合には、速やかに除去する。特に、ブドウでは裂果が発生しやすいため注意する。
- ⑦強風や雨により、枝葉や果実等への損傷や泥のはね上がりなどから、病害の発生が心配されるため、防除基準にしたがって薬剤防除や発病果などの除去を徹底する。
- ⑧施設栽培では、棚やハウスの骨材、ビニール、各種の装置、機具、機械等を点検し、破損のある場合は修理する。

○野菜

【事前対策】

- ①ほ場周辺の排水路を点検、補修、整備し、排水路からの逆流防止のため、ゴミ等を取り除く。また、ほ場内には、排水溝を設ける。
- ②風の強く当たる地域では、ほ場周辺に防風ネットを設置する。
- ③ハウスや雨除け施設などの支柱や基礎などを点検、補強するとともに、ビニールがまくられないようにマイカ線等を点検し施設の被害防止に努める。
- ④強風による飛しょう物で、ハウスなどの施設が損傷を受けないように、周辺の清掃や防風ネットを設置する。
- ⑤ナス、トマト、キュウリ等は、倒伏を防ぐため、支柱の補強、固定、誘引等を行う。
- ⑥収穫期を迎えている果実は、台風情報に注意し、必要に応じ速やかに収穫する。

【事後対策】

- ①滞水しているほ場は、速やかに排水を行う。
- ②茎葉の損傷や泥のはね上がり、汚水の浸入等により、疫病、菌核病など病害の発生が懸念されるため、防除基準に従って薬剤を散布し、病害の発生を予防する。
- ③ナス、キュウリ、トマト等は、キズ果を早めに除去し、樹の負担の軽減を図る。
- ④倒伏したものは速やかに引き起こす。この際、根を切らないように注意する。ただし、スイートコーンは、無理に引き起こすと根を傷めるので、原則そのまま管理する。

○花き

【事前対策】

- ①野菜の事前対策①～④に準拠して、被害防止に努める。
- ②露地切り花は、フラワーネットや支柱などの点検・補強を行い倒伏防止に努める。
- ③鉢花の露地ベンチ栽培では、ベンチに固定できる鉢利用（C鋼鉢）や穴あきトレーを利用するなど倒伏防止に努める。

【事後対策】

- ①滞水しているほ場は、速やかに排水を行う。
- ②露地切り花が倒伏した場合は根を切らぬように引き起こす。
- ③茎葉の損傷により、疫病、白さび病、灰色かび病など病害の発生が懸念されるため、防除基準に従い予防散布を徹底する。

○水 稲

【事前対策】

- ①浸水・冠水害を防止するため、排水路の点検、補修、ゴミの除去を行う。
- ②事前に水口、排水口をふさぎ、水の流入を防ぐ。

【事後対策】

- ①浸水や冠水した水田では、早急に排水に努め、新鮮な水を灌漑する。

○大 豆

【事前対策】

- ①ほ場周囲に排水溝を設置する。
- ②滞水しやすい部分には、あらかじめ溝切りをする。

【事後対策】

- ①滞水しているほ場は、速やかに排水を行う

○畜 産

【事前対策】

- ①畜産施設については、損傷、倒壊等を避けるため早めの点検を行い、必要に応じて補修を行う。
- ②畜産施設への浸水の恐れがある場合、溝を掘るなどして排水に努める。また、畜舎への浸水等による家畜への被害に備え、事前に避難場所の確認などを行う。
- ③停電や断水等への対応を確認し、必要に応じて発電機等の手配をするとともに、搾乳作業やバルククーラーの冷却に支障のないよう、万全を期す。

【事後対策】

- ①飼料作物
 - ・冠水や浸水等の被害を受けたほ場においては、速やかな排水に努める。
- ②家畜
 - ・養分の低下した飼料作物や品質の低下した濃厚飼料の給与をする場合は、栄養価や嗜好性等にも配慮し、家畜の生産性が低下することのないよう注意する。
- ③畜舎
 - ・天候が回復した後、直ちに畜産施設内及びその周辺の排水を行う。また、土砂が流入した場合には、再度の土砂流入等の事故に十分注意しつつ、土砂を除去する。
 - ・台風通過後は、畜舎内外の消毒を徹底し、疾病等の未然防止に努める。